

黒花豆の栽培展示成績

帯広市川西農業協同組合

1. 目的

黒花豆（仮称）の栽培特性を大白花と比較する。

2. 実施場所

帯広市川西町 帯広市農業技術センターほ場

3. 栽培方法

(1) 供試品種 「黒花豆（仮称）」「大白花」

(2) 面積および区制

1区面積 15.2 m² (畦幅 80cm×2畦×9.5m) 反復無し

(3) 耕種等概要

土壌区分	土性	前作	畦幅×株間	栽植本数	栽培法
沖積土	壤土	かぼちゃ	80cm×80cm	1,562 株/10a	露地・手竹

※1株2本立ち

施肥量 (kg/10a)						防除回数	
施肥・は種	肥料名	窒素	リン酸	加里	苦土	病害	虫害
6月7日	農配豆2号 45g/10a	2.0	9.5	4.5	2.0	3	3

4. 試験結果

(1) 生育調査

- ① 7月中旬にはほとんどが落花して、昨年以上の着莢不良が見込まれた。
- ② 着莢が極端に少ないため、茎葉の生長は衰えることがなかった。
- ③ 8月下旬以降は最高気温が30℃を下回るようになり、落花が少なくなった。
- ④ 9月以降の着莢が多いため、青莢の割合が多く成熟期前に根切りを行った。

表一生育調査

供試品種	出芽期	開花期	つる上げ	根切り	成熟期	脱穀時期
黒花豆	6月14日	7月11日	6月28日	9月30日	未達	10月22日
大白花	6月14日	7月10日		9月30日	未達	

(2) 収量調査

- ① 総子実重は「大白花」が「黒花豆」に 19%勝った。
- ② 未熟莢が多く、粒大は不揃いのため、屑豆が多く、整粒は 50～60%と少なかった。
- ③ 総収量は「大白花」が勝るが屑豆率が多いのは莢あたりによる着色が「黒花豆」に比較して明確なことによる。
- ④ 昨年と同様に「黒花豆」に紫花豆と白花豆が混じった。

表-収量調査

() は R5 年数値

供試品種	総子実重 (kg/10a)	製品子実重 (kg/10a)	左比	百粒重 (g)	屑豆率 (%)
黒花豆	375 (141)	223 (49)	101 (153)	156 (143)	41 (71)
大白花	446 (167)	221 (32)	100 (100)	171 (155)	50 (81)

5. 考察

- ① 総子実重は「大白花」がやや勝った点からして、「黒花豆」の収量性は「大白花」並からやや劣るのではないかと予想した。
- ② 昨年同様に紫花豆の系統が、開花時期の高温に弱いことが改めて確認されたが、「黒花豆」の希少価値をセールスポイントに栽培するためには、平常年の生育を確認したい。



ほとんどが落花している(7月下旬)



8月下旬 着莢が認められる



黒花豆と大白花